

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう！主に癒され、整えられて」

<先週の説教から>

『待降節・ミカ ⑩- わが、救いの神を待つ』

武田真治牧師

ミカ書 6:9-7:7 ルカ福音書 12:49-59

ミカ書を連続して読み進めています。今日の箇所は、クリスマス“待つ”待降節にぴったりの言葉となりました。不思議な導きと感謝しています。即ち「しかし、わたしは主を仰ぎ、わが救いの神を待つ。わが神は、わたしの願いを聞かれる。」(7章7節)です。私たちにあってイエス様こそ“わが救いの神”であり、私たちの只中にお迎えしましょう！

ただ、ここでのミカの言葉は決して喜びに溢れて神様を“待っている”ではありません。むしろ、エルサレムの住民たちの腐敗や不正(=「都の金持ちは不法で満ち、住民は偽りを語る」「主の慈しみに生きる者はこの国から滅び、人々の中に正しい者はいなくなった」「役人も裁判官も報酬を目当てとし、名士も私欲をもって語る」)に満ちている状態を踏まえながら、神様を待っているのです。このような状況に対し神様は「まだ、わたしは忍ばねばならないのか、神に逆らう者の家、不正に蓄えた富を」と言われておられるのです。

問題は、このような状況で、もし神様をこの地に“お迎えする”ことになったなら、その結果はどうなるだろうかという点なのです。それは明らかに“裁き主”として、神様をこの地上にお迎えすることになりはしないでしょうか？

実は「待降節」には二つの意味があります。神様がこの地上に来られるということは、①救いの到来と完成の時でもあります。同時に②裁きの時にもなるということです。ミカはこの点を踏まえた上で「わが救いの神を待つ」と語っているのです。ここには厳しい現実があります。私たちが「主を待つ」ということは、まさにこの世界の“救い”と同時に“裁き”をも望むことになります。故にその時には今日の箇所にははっきりと書かれているように「娘は母に、嫁はしゅとめに立ち向かう。人の敵はその家の者」となるのだと。まさにイエス様が今日のルカ福音書で、このミカの預言の言葉を引用されて「わたしが来た(来る)のは、地上に火を投ずるため

である」と言われているように！

ミカ書には「待つ」という言葉はたったの2箇所しか出てきません。今日の箇所と1章12節です。しかも両方とも違う言葉が使われています。ヤーハルとフルですが、ヤーハルは(待望する、希望する)の意味ですが、実はフルの方は(生まれることを待つ)ことを意味し、そこから(産みの苦しみや陣痛)をも意味する言葉なのです。“苦しみつつ待つ”待ち方もあるのです。しかしそれは新しい命を生み出す=喜びの時を待つための苦しみの時でもあるのです。両方の意味がこの待降節には含まれていると言い得ますね。

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 12月27日(水) 20:00
II. 12月28日(木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答

祈祷主題: 2023年の歩みを覚えて

担当者: (水) 阿部 (木) 黒澤

祈りに覚える人: 奈良さん 新元さん

【教勢報告】

主日礼拝 男24 女52 計76

祈祷会 I. 男6 女2 計8 II. 男1 女9 計10

日曜学校 幼稚科5 小中科14 計19

【燭火礼拝】 12月24日(日) 午後5時より

司式: 岩井長老 奏楽: 須田

礼拝・受付: 礼拝委員会 看板: 岩佐

献金: 矢崎 山田

【次週主日礼拝】 12月31日(日)

聖書: 詩編 38:1~22

マタイによる福音書 8:5~13

説教: 「詩編⑩ — あなたの矢が私を貫き」

武田真治牧師

美歌: 271(1)、32(1~2)、280(1~

4)、120(1~3)、120(4~6)、24

【次週当番表】

司式: 羽倉長老 奏楽: 勝村 礼拝: 坂田長老

献金: 吉岡 吉川 受付: 東 佐々木

会堂準備: 阿部 伊藤 伊東 岩井

岩井

看板: 岩佐 週報: 吉岡 お花:

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会

礼拝後: 無

2023年 12月 24日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>